

私たちの大切な税金の使いみち

平成 21 年度予算

一般会計 202 億 4,000 万円

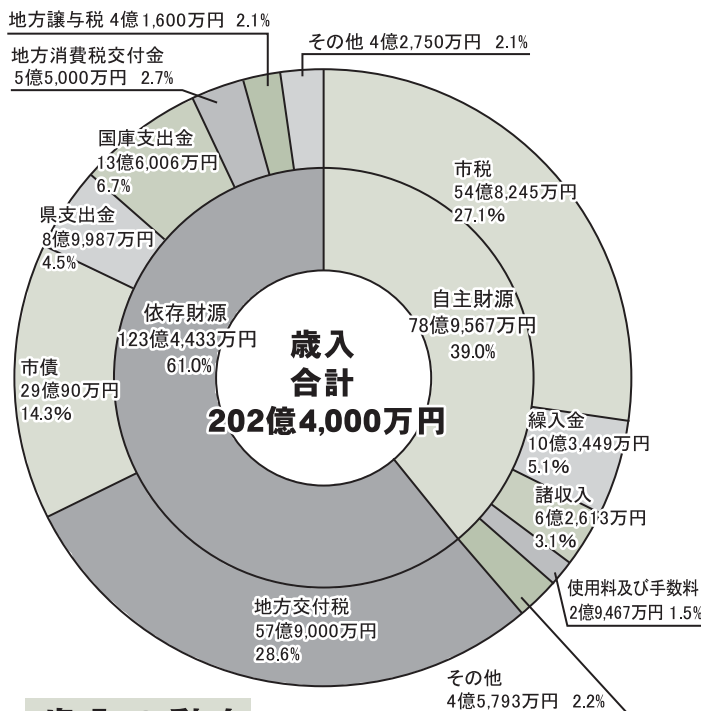
特別会計 110 億 3,310 万円

公営企業会計 6 億 6,847 万円

全会計合計 319 億 4,157 万円

平成21年度の当初予算が3月定例議会において可決されました。予算とは、会計年度(4月1日～翌年3月31日)ごとに皆さんから納めていただく税収入などを「歳入」として見積もり、それに応じて、どのような目的でどれだけの経費を使うかを「歳出」としてあらかじめ定めるものです。このうち一般会計は、市の中心となるもので、市の基本的な予算が計上されています。

平成21年度の一般会計当初予算は、202億4,000万円で、前年度に比べて6億8,200万円(3.3%)の減額となっています。今回はその概要をお知らせします。

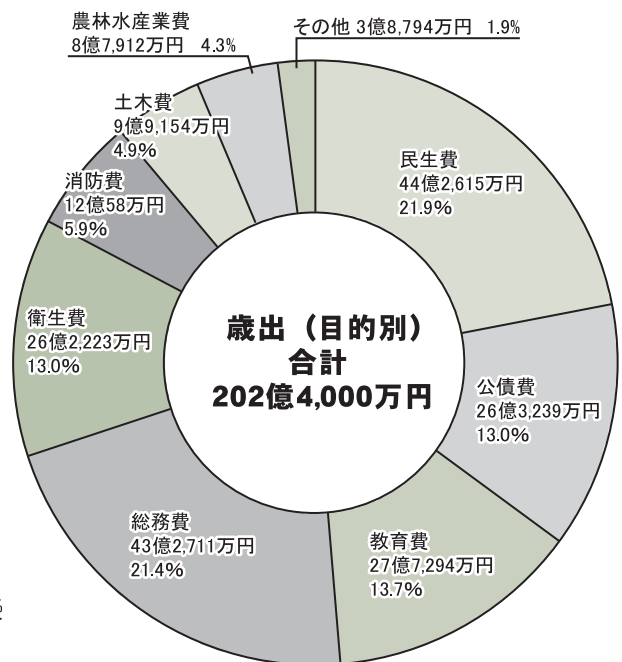


歳入の動向

歳入には大きく分けて、自主財源と依存財源があります。

自主財源は、市が独自に収入できる財源のことで、このうち皆さんに納めていただいている市税は、自主財源の7割近くを占め、市の予算を支える大きな柱となっています。平成21年度の市税は景気悪化による市民税の減などを考慮し、前年度に比べ3億1,588万円(5.4%)減の、54億8,245万円を見込みました。

依存財源は、国や県の基準に基づき交付されたり、割り当てられたりする財源のことです。主なものには地方交付税や国庫支出金、県支出金、市債などがあります。このうち地方交付税は昨年度に創設された地域再生対策費などを見込むとともに合併による優遇措置を考慮し、前年度に比べ1億6,700万円(3.0%)増の57億9,000万円を見込みました。



歳出の動向

歳出でもっとも大きな割合を占めているのは民生費で、前年度に比べて2,314万円(0.5%)減額したものの、全体の21.9%を占め、44億2,615万円となっています。民生費は高齢者、障がい者、児童の福祉のために使われる経費や、国民健康保険や介護保険、後期高齢者医療といった公的保険を支えるための費用が含まれています。

続いて総務費の43億2,711万円が21.4%を占め、前年度に比べて14億9,336万円(52.7%)の大幅増額となりました。これは、(仮称)さんぶの森交流センター整備事業や地域振興基金積立事業などの大型事業を予定したことによるものです。

また、教育費については、前年度に比べて4億2,889万円(13.4%)の減額となりましたが、今年度においても中学校校舎の建替え(前年度からの継続事業)や耐震補強工事、小学校体育館の設計業務などを行うため、総額で27億7,294万円となり、全体の13.7%と前年度に引続き大きな割合を占めています。